

なかふらのの未来へ

“つながる”学校づくり

No.3

〜第3話「長い目で将来を見通した

検討が必要ですね」(検討委員さんのことばより)〜

令和元年12月19日。中富良野小学

校と中富良野中学校の両校の校長、PTAの代表など、計10名で構成された「中富良野小学校・中富良野中学校施設老朽化対策検討委員会」(以下、「検討委員会」)が発足しました。

第1回会議の開催以降、委員の増員や新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う延期などを経ながら、両校の現施設の状態や今後の児童生徒推計、教育制度や施設整備に関わる国の情勢、近隣市町村の学校視察や先進事例の検証などについて、会議を重ねてきました。

令和2年10月の会議で、これまでの経過と今後の見通しを持ったため、次の3点を大きな柱として更に検討していくこととなりました。

①両校を一体化した建物として整備



すること

②今の中富良野中学校敷地及びその近隣地で整備すること

③令和7年度の新校舎使用開始を目指すこと

その後、児童生徒保護者アンケートと町民意見公募の実施や、町議会の了承を経ながら教育総合会議や教育委員会、校長会議や教頭会議、各学校運営協議会などにて説明の機会やご意見をお伺いする機会をいただてきました。

そして令和3年7月の会議で、建設予定地を「今の中富良野中学校グラウンドを一部利用した場所(図1のとおり)」として今後詳細の設計を進めていくことになりました。

また、今回の学校施設老朽化対策にあたり、町内の有志の皆さんか

ら検討委員会に宛てて、自校給食施設の設置による食育や地産地消の取り組みなどのご提案をいただきました。

様々な角度から関係機関も含め検証した結果、自校給食の実現に向けては多くの時間を必要とすることから今回、自校給食設備設置は見送り、学校施設の老朽化対策を最優先する

こととしました。今後引き続き検討していくことを検討委員会の回答として代表者の方に説明しご理解をいただきました。

学校施設の老朽化対策によって多くの皆さんがつながり、子どもたちのことを思い、未来のことを考える。まさに“つながる”学校づくりが今、進んでいます。【つづく】

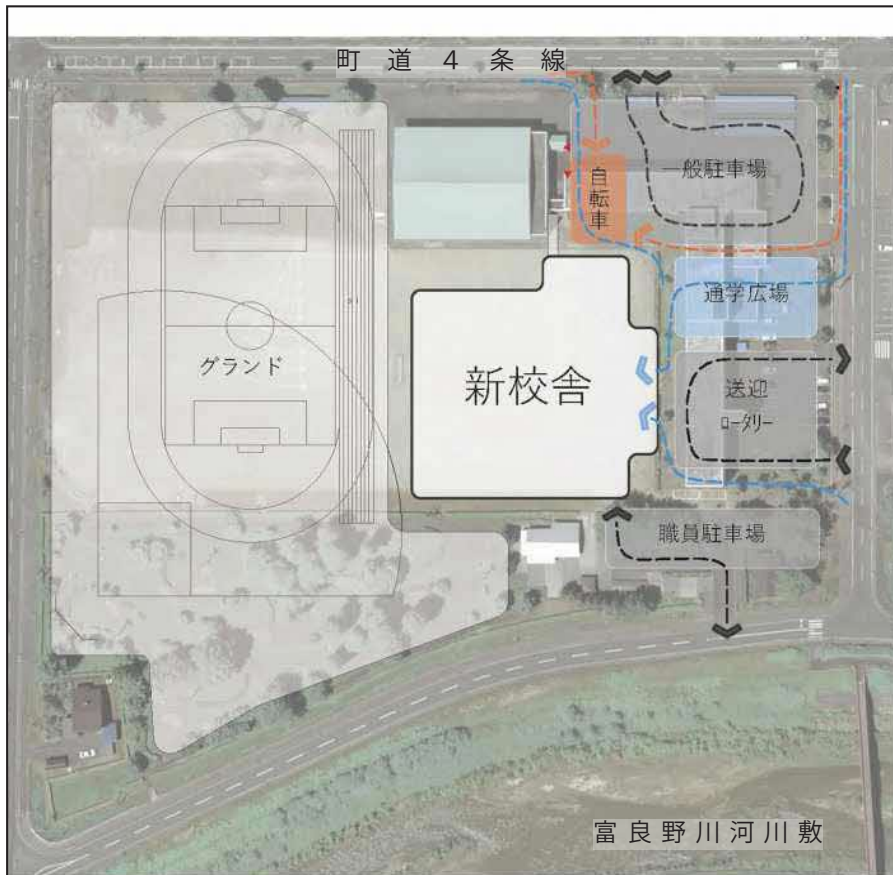


図1 新校舎配置図(案)